

# おらほの病院

100

「あたたかな医療をめざして」

諏訪中央病院 リレーコラム

「おらほの病院」も100回目の掲載となりました。長くご愛読いただいている皆様に感謝申し上げます。

病院長という立場となり、多くの情報、多くの人々との出会いに驚きました。それでも地域の皆様をはじめとした多くの方々に支えられ日々仕事をしています。大変なことは前提です。それでも社会が大きく変わろうとしている現在、この職責で仕事をさせていただけのことの幸せを感じています。

社会が大きく変わろうとしている背景は、人口減少です。このことは多くの方々に共有されていると思います。2000年を越えた頃から日本社会は人口減少局面に入りました。日本社会にとって初めての経験です。そのことの影響を日常生活で感じる時代となってきました。それでも社会は続いていきます。「移行期的混乱」の中で、ひとつひとつの課題を発展的に乗り越えていかなければなりません。

## 諏訪中央病院 院長

さとう たいご  
佐藤 泰吾



佐藤 泰吾 (さとう たいご)

院長。平成12年～16年舞鶴市民病院内科  
および舞鶴市民病院付属加佐診療所勤務、  
平成17年～令和2年諏訪中央病院内科／総  
合診療部勤務、令和3年～5年国保依田窪  
病院を経て令和6年4月より現職

# 「社会的共通資本」としての医療を育む

「社会的共通資本」  
としての医療を育んで  
いきたい、ということ  
をこの間、様々なこと  
らでお話させていただ  
きました。「社会的共  
通資本」とは、経済学  
者の故・宇沢弘文氏が  
提唱した概念です。「す  
べての人びとが、ゆた  
かな経済生活を営み、  
すぐれた文化を展開  
し、人間的に魅力のあ  
る社会の安定的な維持  
を可能にする自然環境と社会的装置」  
のことで、自然環境（大気、水、森林  
など）、社会的インフラストラクチャー  
（交通機関、上下水道など）、制度資本  
（教育、医療など）に分けられます。  
組合立諏訪中央病院が守るべきもの  
も、社会的共通資本としての医療で  
す。

「社会的共通資本」  
す。これからは市町村が丸ごと合併す  
るのではなく、必要とされる社会的共  
通資本ごとに、どのような協力関係で  
住民生活の基盤を支えていくのかを検  
討する時代です。

自然環境に根ざした観光、ごみ処理  
や交通などに必要なインフラ、中小高  
等学校の在り方、新しい地域医療構  
想。どれも単一の自治体では対応でき  
なくなってきました。歴史的、地理  
的条件を吟味し、課題ごとにその地域  
が成り立つような範囲を設定し、越境  
をしながら互いに手を取り合うことが  
求められています。時代の問題は共通  
です。そのことから逃げられませ  
ん。問題の総量も一緒です。

そうであるならば境界を作って閉じ  
たり奪い合ったりするよりも、一歩踏  
み出して自分の枠組みを越え、支え合  
い与え合ったほうがより豊かな未来を  
構築できる、そんなことを年頭にあた  
り考えています。

諏訪中央病院は「組合立」病院です。  
この構造には未来があると考えていま

次回は2月2日掲載予定  
(題字は鎌田實名誉院長)